
黄昏の罪人

モノクロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黄昏の罪人

【Nコード】

N1495L

【作者名】

モノクロ

【あらすじ】

暁の国。白昼、宵闇、黄昏に並ぶ四大帝国の一つ。

記憶喪失の青年、ノアはその帝都アルセルグの孤児院で一年前から働いていた。

ある日、彼がいつものように孤児院の手伝いをしていると、一人の帝国兵が孤児院へとやって来た。

「孤児院の子供が城へもぐり込み、盗みを働いた。処罰の必要がある」と兵士は言った。そしてノアは、子供たちの代わりに禁固二十年の罪を背負うことになってしまふ。

城の地下に投獄されたノアは、ある少女の声に導かれるように牢屋の隠し通路を見つめる。隠し通路の奥には上へと続く長い長い階段。そして階段を上ったノアは、一人の物言わぬ少女と出会った。この出会いを境に、止まっていた運命の歯車が回りだす。

序章

なあ、戦争ってどうやったら消えると思う？

何度も何度も考えた。それこそ頭の中が沸騰するくらいに。それでも、答えは見つからない。暗闇の中、手探りで一匹の蟻を見つけて出す事よりも難しい。

それとも、答えなんか無いのか？ 戦争が無いなんて、ただの夢なのかな……。

人は憎しみ無しには生きられない生き物だから。とても弱くて、儂くて。憎しみの対象が存在しなければ、心が硝子のように砕けてしまうから。憎しみはやがて争いを生み、さらに別の憎しみを生み出す。負の連鎖は永遠に続く。

それでもやっぱり、愛する人たちが平穏に暮らせる世界が、欲しい。

だから、俺は……罪人つみびとになる。

第一話 牢獄、そして出会い

「今日からここがお前の住まいになる」

そう言った番兵が示した先には、硬く冷たい鉄格子で遮られた空間があった。

湿気臭く、粗末な石材で作られた壁と床には所々に苔がはびこっていた。そこにあるのは、牢屋には似つかわぬ朽ちかけの木で出来たやたら凝ったデザインのシングルベッド。そして《用足し》に必要な便器だけだ。

向かって右側にベッド、左端奥に便器。さすがに囚人の収容に使うだけあって無駄な物が無い。
それにしても、

「陰気くさっ……。まあ、華やかな牢屋つてのが無理があるかな」

「何を一人で呟いている！いいからさっさと入れ！」

いきなり番兵に後ろから突き飛ばされたので、ノアはバランスを崩して前のめりに倒れてしまった。それと同時に牢の格子が激しい音を立てて閉まった。

「いつてえ……。おいこら！もっと優しくしろ！って…あれ？」

振り返ると番兵はすでに持ち場へ戻ったらしく、ノアの怒声は虚しく閑散とした牢屋内に響いた。

改めて周りを見渡す。空気が重々しい。湿気が多く、日の光が届かない地下牢はとんでもなく淋しい場所なんだと、目を凝らしながら再確認する。唯一の光源である松明の光でさえ不十分だ、そのせいで他にもある牢屋の中がよく確認できない。しかし、自分の他にもここに収容されている囚人が居ることをノアは肌で感じ取っていた。

「さあて、どうするかな？ 脱獄なんて劇的な展開はお城の皆さんが望んでないだろうし……」

「脱獄？ それは悪いけど無理って話だ、兄ちゃん」

向かいの牢屋の中から独り言への返答が来た。中年の男の声だ。

「どうかな？ そういうのは、やってみなきゃ分かんないだろう」

ノアはすかさず異を唱えた。

「そうとも言えるがな。でもな、この牢は見かけとは裏腹にももの凄く強固だ。そして牢の管轄長は 陽光の煌き だ。聞いたことあるだろう？」

陽光の煌き。アルセルグ騎士団一番隊長の二つ名だ。ここ一年間の記憶しか有していないノアでも聞き覚えがあった。八年前の戦争では、たった一人で敵兵二百人を薙ぎ倒したと噂されるほどの武人だ。先日も帝都で彼のファンが騒いでいたな、とノアは思い出していた。

「確かに無理っばいな……」

ノアは顎に手を当てて思索した。

「だろ？ あんな化け物を相手にしたら命がいくつあっても足りねえよ」

しかし、彼が心配していたのは自分に降りかかるであろう火の粉についてではなく、彼の知人へ降りかかる可能性のある火の粉の方だった。

脱獄したら孤児院のみんなに迷惑かかるな、明らかに。うん、やめよう。大人しくしていよう、とノアは心の中で呟いた。

「ところで、兄ちゃんは俺たち凶人に課せられる仕事については説明されたのか？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1495/>

黄昏の罪人

2010年10月11日19時33分発行